

鹿の食害で減少しつつある

伊吹山のクサタチバナ (滋賀県米原市 伊吹山)

クサタチバナは草橘で、暖地の海岸沿いに稀に生える橘の花に似る事による。京都御所、紫宸殿の「右近の橘」は、栽培品種との事。双方とも、筆者の地域には生育しない植物で、憧れの花の一つであった。

いろいろ調べていると、通っていた伊吹山にも咲くという。花期は6月下旬。伊吹山は花の山として知られ、花の季節は7月下旬。しかし、現在鹿の食害に遭って、ほぼ全滅状態である。クサタチバナも鹿の食害で無くなっているのではないかと、滋賀県庁に電話すると、まだ残っているとのことであった。ネットで画像検索してみると、意外に多い。そして、かなりの群生も見られる。これは期待できそうだと、勇んで出かけたのである。

伊吹山の有料道路は朝の8時開門。低地は晴れているのに、山頂付近に厚い雲がかかっている。さすが霧の山である。琵琶湖からの気流によって、山頂付近には常に霧がかかっている。これが、低い山にも関わらず、高山のように、花が密集して咲乱れる所以なのである。

霧のかかる西遊歩道を登ると、意外に早く白い花が見えてきた。クサタチバナである。感動の対面だ。あまりに濃い霧で撮影にならないので、カメラをセットして晴れるのを待っていると、ゆらゆらとアサギマダラが飛んできた。吸蜜をするのかと思いきや、先端にちょこんと止まってご休憩。寒いので、飛ぶのがやっとという状況なのだろう。

しかし、情報のあった西遊歩道入口辺りと、東遊歩道の出口辺りの群生地には、思っていた程の個体数はなかった。作品の西遊歩道の、この一角が最も密度が高かった。これは想定外なので、帰って再び滋賀県庁に問合せをした。しかし、担当者に個体数の認識はなかった。

東遊歩道に回った時、柵内に数等の巨大な鹿を目撃した。柵をものともせずの乱入である。そして、鹿が好まないとするクサタチバナやフジテンニンソウ、そして有毒のイブキトリカブトも少しづつ食べるとの報告を読んだ。やはり、伊吹山で全ての植物が減少している原因は鹿にあったのである。



クサタチバナ・ボタニカルフォトによる。